



メートル・ダール* ジャック・ロワール来日記念シンポジウム

宮城学院創立130周年記念事業「光をプロデュースする ステンドグラス作家ガブリエル・ロワールと二〇世紀」関連企画

公開国際シンポジウム「ステンドグラスとはなにか 照らされる歴史・時代・空間」

2016年12月10日 **土** 13時から17時
宮城学院礼拝堂ホール

油彩「天地創造」(1986-1987) フランスカトリック教会蔵 (複製パネル展示予定)

1980年に建築された宮城学院の礼拝堂には、3枚の巨大なステンドグラスパネルがある。

これは、20世紀ヨーロッパのステンドグラス制作の巨匠、フランスのガブリエル・ロワール (Gabriel Loire,1904-1996) がデザインを手がけた名品である。

宮城学院創立130年を迎えた2016年を記念して、ステンドグラスという芸術表現に人類が託し続けてきたものについて、専門家と作家が同時に登壇し多角的に論じるシンポジウムを開催する。

20ÈME SIÈCLE EN LUMIÈRES

13:00 開会 / 学長 平川新あいさつ

13:10-14:00 基調講演「アトリエ・ロワールとその時代」

ジャック・ロワール (Jacques Loire)

ガブリエル・ロワールの実子で、ステンドグラス作家。20世紀後半、父ガブリエルとともに、分厚い色ガラス「ダル・ド・ヴェール」のステンドグラスづくりに関わり、フランスの現代ステンドグラス芸術の世界的な地位を不動のものとする。2013年、日本における人間国宝にあたる称号メートル・ダール*を贈られ現在に至る。

通訳：黒岩卓 東北大学准教授 (専門：中世・ルネサンスの仏文学、特に15、16世紀の韻文演劇作品)

14:30-16:10 リレー講演

14:30-14:55 ステンドグラスと聖性空間の創造

森雅彦 (もりまさひこ)

宮城学院女子大学一般教育部教授。宮城県仙台市生れ。東北大学大学院修了。専門はイタリア・ルネサンスを中心とする西洋美術史。主な著書：『ミケランジェロ ピエタ』(岩波書店)、『ゴヤ―最後のカーニバル』(白水社)、『アカデミーとフランス近代絵画』(三元社)、『ルネサンス美術館』(小学館)、『アルベルティ 芸術論』(新装普及版、中央公論美術出版)、『アルベルティ イタリア・ルネサンスの構築者』(白水社)ほか。

15:00-15:25 19世紀イギリスのデザイン改革運動とステンドグラス

吉村典子 (よしむら のりこ)

宮城学院女子大学学芸学部英文学科教授。愛知県生まれ。英国グラスゴー大学で装飾美術史を専攻。2002年より仙台へ(宮城学院女子大学赴任)。専門はイギリスを中心とした西洋装飾芸術、建築(特に住宅)史。「ヴィクトリア時代の室内装飾」、「ミントン」、「ウィリアム・ド・モーガン」等の展覧会ならびに同図録を監修・出版。ウィリアム・ド・モーガンの没後百年にあたる2017年に、『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』を出版予定。

15:30-15:55 光と空間

安田直民 (やすだ なおたみ)

宮城学院女子大学生生活科学部生活文化デザイン学科准教授、SOYsource 建築設計事務所共同主宰。東北大学大学院工学研究科、イリノイ工科大学にて工学、建築学の修士を取得し、シカゴの建築設計事務所、Murphy/Jahn Architects(現 JAHN)、坂倉建築研究所を経て現職。住宅、民間施設、公共施設など幅広い用途の建物の設計を手がけるとともに、日本建築家協会のメンバーとして東日本大震災の復興支援活動にも力を入れている。受賞歴：グッドデザイン賞、東北建築賞ほか。

15:55-16:10 休憩

16:10-16:40 パネルディスカッション「ステンドグラスがつなぐもの～技・人・時代」

16:40-16:55 質疑応答

17:00- 閉会

宮城交通バスでのアクセス方法

駐車場には限りがあります。なるべく公共交通機関をご利用ください。

仙台駅から(所要時間:約30分)

A:西口バスプール3番「宮城学院前」行乗車

「宮城学院前」下車

B:西口バスプール2番「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」行乗車

「宮城学院前」下車

地下鉄旭ヶ丘駅から(所要時間:約10分)

3番バス停「双葉ヶ丘入口經由宮城学院前行」乗車

「宮城学院前」下車

後援 NHK 仙台放送局 | 河北新報社

*メートル・ダール=日本では人間国宝にあたるフランスの称号

